

ミニマルな Nelson-Barr 模型の再検討

Tuesday, September 2, 2025 3:45 PM (2 hours)

本発表では、自発的な CP 対称性の破れによって強い CP 問題を解決する Nelson-Barr 模型を再検討する。従来この模型は高次演算子やループ効果で強い CP 角が再び生成される「クオリティ問題」に加え、宇宙論的なドメインウォール問題が存在することが課題とされてきた。今回、近似的な大域的対称性を導入することによるクオリティ問題の解決を提案するとともに、再加熱温度が高い場合にもドメインウォール問題を避ける機構を提案する。

Primary author: MURAI, Kai (Tohoku University)

Co-author: Prof. NAKAYAMA, Kazunori (Tohoku University)

Presenter: MURAI, Kai (Tohoku University)

Session Classification: ポスター 1